



三百年の歴史、岡山の米、南部杜氏が醸す酒

熊屋酒造有限会社 (倉敷市林705)

TEL : 086-485-0007 / URL : <https://41sake.com/home/kumaya>



経営概要

代表者	14代目 代表取締役 庵谷 晴男 (いほりや はるお)
創業	創業 享保元年 (1716年)
蔵の歴史	享保元年 (1716年)、庵谷伊七が「熊屋本家」を創業。時代の荒波を越え、14代、300年を超えて受け継がれてきた。全国の蔵人との技術交流や研修を通じて、酒造りに磨きをかけている。銘酒「伊七」には、地域と歩み、伝統を守りながら進化を続ける熊屋酒造の誇りが息づいている。
経営努力	◆原材料・資材価格が高騰する中、商品価格を見直すとともに、「伊七」の品質向上を図り、純米吟醸・純米大吟醸など高付加価値商品の充実に取り組んでいる。 ◆岡山県産の雄町米や朝日米の個性を生かした高級酒を開発して、輸出向け「庵」ブランドを展開。海外では雄町を使った高品質商品に重点を置き、量よりも一本当たりの価値と収益性を重視。



事業内容

酒造りのこだわり	◆契約農家が育てた雄町米や朝日米を使用。雄町米の豊かなうま味と奥深さ、朝日米の爽やかな酸味を生かし、米の違いが伝わる酒を醸す。 ◆当蔵の北にある日本第一熊野神社の裏山を水源とする伏流水を使用。発酵を促すやや硬水と、繊細な味わいを生む軟水を工程に応じて使い分け、酒質を整えている。 ◆岡山では珍しい日本三大杜氏の筆頭である南部杜氏の技を受け継ぎ、全国の蔵人と研鑽を重ねる。口に含むと米のうま味が広がり、潮が引くように後味が切れる、飲み飽きしない酒を目指している。
主な銘柄	伊七 (いしち)、庵 (あん)
日本酒の輸出の状況	◆フランス、香港、中国、米国、シンガポール等へ輸出。カナダへの取引が決まり、英国向けの商談も進んでいる。 ◆輸出の中心となる「庵」ブランドは、岡山県産雄町米を主に使用。酒類商社の海外ネットワークを活用し、岡山の風土と米の個性を世界へ発信するなど、高品質な岡山の酒の海外における認知向上を目指す。



今後の展望

- ◆輸出向け「庵」ブランドの認知をさらに高め、岡山の米と風土の魅力を世界へ広く発信していく。
- ◆酒造りで年間10トン以上発生する酒粕を地域資源と捉え、高校や大学等と連携し、菓子・アイスの商品開発や、肥料・飼料への活用可能性を検討している。アルコール除去や乾燥・粉末化、臭いなどの課題を解決し、酒粕を地域内で循環させる仕組みづくりを目指す。

令和8年7月27日現在



14代目：庵谷晴男氏

高校・大学や地域等と連携し、活用の可能性を検討中

～ 酒粕を地域資源として、食品・肥料・飼料へ～

